

かちまい論壇「冬こそ十勝へ」

2018/02/12 13:00

日本銀行帯広事務所長

水川達生

日本経済は、海外経済の成長などを背景に緩やかに拡大している。輸出が増加基調にある中で、とりわけ輸出型製造業の立地が多い地域の景気がよい。十勝の景気も、災害復旧工事を中心とした公共投資の増加や力強い農業生産などに支えられ持ち直しているが、輸出産業のウエートが低い分、足元好調な外需を十分に取り込めてはいない。

域外需要を取り込むという意味で、輸出と同様の経済効果があり、世界的にも成長産業と目されているのが観光だ。観光の経済効果は、宿泊、飲食、移動、購買といった観光客の直接的な消費行動がもたらす効果にとどまらず、地域の幅広い産業に及ぶ。このため、十勝でも観光振興に向けてさまざまな取り組みが行われ、道の調査では、2017年度上期(4～9月)の管内の観光入込客数が現在の調査方法に改められた1997年度以降で最多となるなど、その成果が表れてきている。

とはいえ、課題も少なくない。特にもったいないと感じるのは、冬期(12～3月)の観光客の入り込みが夏期(6～9月)の半分にも満たないことだ。これは、まさに私自身が直面している課題でもある。赴任以来、関東や関西に住む知人への十勝のプロモーションに余念のない私だが、彼らから異口同音に聞かれるのは「夏になったら行くね」という残念な一言だ。

概して道外の人たちは、冬の北海道といえば、曇り空から冷たい雪が降り続く、凍えるような情景をイメージしがちのようだが、ここ十勝は違う。十勝晴れの言葉どおり、澄み切った青空の下に広がる白銀の大地や今にも吸い込まれそうな美しい星空は、最近話題のジュエリーアイス同様、それだけでも訪れる価値があると思うのだが、あまり知られていない。

こうした十勝の冬の魅力は、アジアを中心とした訪日外国人客には相応に認知されているようだ。絶対数は道央などに及ばないが、十勝の冬期の外国人宿泊客数は夏期のおよそ2倍に達している。今後は、インバウンド需要のさらなる掘り起こし、特により経済効果が見込め、伸びしろも大きい欧米やオーストラリアからの誘客をいかに図っていくのかが課題だろう。

同時に国内の観光需要も大事にしたい。中でも存在感が増しているシニア世代やその予備軍は比較的有望な顧客層とみられるが、冬場に当地でその姿を見掛けることはそう多くはない。厳しい寒さや雪道への不安などハードルが高いのかもしれない。防寒に配慮したメニューづくりや歩道周りの除雪徹底など、年配者でも安心して観光を楽しめる工夫を考えたい。

また、子育て・若者世代も、冬のアウトドアレジャーや十勝そのものの魅力を上手にアピールしていくことで、リピーター化はもちろん、移住までも視野に収める、願ったりかなったりの上客となる可能性を秘めている。

今年、管内では民間宇宙ロケットの2回目の打ち上げや大型テレビドラマの撮影が予定されている。十勝が注目を集めるこの機会に、情報発信を含む観光振興の取り組みを一段と加速・深化させ、年間を通じより多くの観光客の来勝につなげたい。